

端的研究成果の報告が行われた。本研究所からは、社会保障基礎理論研究部の佐藤格室長および企画部の福田が参加し、東京大学や日本大学の研究者と行った共同研究について以下の報告を行った。

Setsuya Fukuda, Itaru Sato, Kazuyuki Terada, Takahiro Toriyabe, Hidehiko Ichimura, Naohiro Ogawa and Rikiya Matsukura. "Household production and consumption over the life cycle in Japan: NTA and NTTA summaries by gender from 1999 to 2014"

アジアからの参加は、私たちのグループのみであった。世界で最も高齢化が進んでいる日本の現状については関心も高く、この機会に情報発信を行い、他の研究者とネットワークを構築する機会を得たことは幸運であった。

また、2日間の会議の後に開講されたワークショップでは、AGENTA プロジェクトで作成・公表しているヨーロッパ25カ国のNTAならびにNTTAデータ (<http://dataexplorer.wittgensteincentre.org/shiny/nta/>) についての説明およびNTA/NTTAデータを用いた新たな高齢化指標の構築についての議論が行われた。AGENTA プロジェクトでは主要な目的のひとつとして、ヨーロッパで比較可能なNTAとNTTAのデータを構築することが挙げられている。ヨーロッパ各国には、それぞれ自国のNTAやNTTAを構築するチームがあるが、AGENTAではこれらのチームとは独立に、欧州内の「完全に比較可能な」データを用いて、国別の調整などは一切行わない「同一手法による推計」によってNTAおよびNTTAの値を計算している。このような比較可能性を重視したHarmonizedデータと各国チームが独自の工夫・調整の下に推計したデータをどのように使い分けていくのかは今後の課題となるように感じられた。一方で、AGENTAが行ったようなデータの公開と共有は、世界的な潮流となりつつある。今後は、公開されたNTAデータを用いた応用的・分析的研究が進んでいくものと思われる。

今回の会議およびワークショップでの報告資料は下記のURLにて公開されている。

<https://www.oeaw.ac.at/vid/events/calendar/conferences/agenta-final-conference/>

(福田節也 記)

台湾における低出産・高齢化と政策的対応に関する資料収集

厚生労働科学研究費による研究事業「東アジア，ASEAN諸国の人口高齢化と人口移動に関する総合的研究」の一環として、筆者が11月21日～25日にかけて台湾を訪問，専門家との面談と資料収集を行った。面談した専門家は、王宏仁教授（国立中山大学），蔡瑞明教授（東海大学），李美玲教授（中央研究院），謝穎慧教授（慈濟大学）等である。主に日本時代以来の台湾の国内・国際移動パターンの変遷について議論し，独力では探し出せなかった資料を入手できた。（鈴木 透 記）

第32回日本国際保健医療学会

2017年11月24日（土），25日（日）に，東京大学本郷キャンパス内で，第32回日本国際保健医療学会大会が，日本熱帯医学会，日本渡航医学会の大会と合同で「グローバルヘルス合同大会2017」として開催された。今年のテーマは「思いは一つ：健康格差の改善」であるが，例年通り，戦時下の医療から保健人材育成まで，多様なテーマのシンポジウム，口頭発表，ポスター発表，自由集會が行われた。